

作文コンテスト入賞作品紹介

このたびはスリーエーネットワーク創立40周年記念作文コンテストにご応募いただき、誠にありがとうございました。審査の結果、以下の方々が入賞なさいました。

課題作文「私の街」

大賞(当社書籍 30,000 円分) :

ハンナ・ユイカ様(ポーランド共和国 グダニスク)

入賞(当社書籍 20,000 円分) :

古川俊雄様(大分県大分市)

佳作(当社書籍 10,000 円分) :

小池律江様(東京都江東区)

鬼一二三様(カンボジア王国 シェムリアップ)

自由作文

大賞(当社書籍 30,000 円分) :

該当なし

入賞(当社書籍 20,000 円分) :

浅井華代様(滋賀県彦根市)「ベトナムのパンはフランスパン？」

佳作(当社書籍 10,000 円分) :

米田恵子様(兵庫県神戸市)「私のネタ帳」

課題作文 私の街

大賞 私の街

ハンナ・ユイカ
(ポーランド共和国 グダニスク)

私の街の名前はグダニスクです。私はグダニスクで生まれました。そして、今もその街に住んでいます。グダニスクはソポトとグディニアの近くにあり、その三つの街をポーランド人はさんれんとしと言います。さんれんとしですから、とても大きいです。そして、観光地として有名です。

グダニスクは本当にすばらしいばしょだと思います。それに、グダニスクに住んでいるとゆうりなてんがたくさんあります。特に夏の間はグダニスクはとてもぎやかです。そして、イベントもたくさんあります。だから、夏休みに個人旅行で来る人と団体旅行で来る人がたくさんいます。

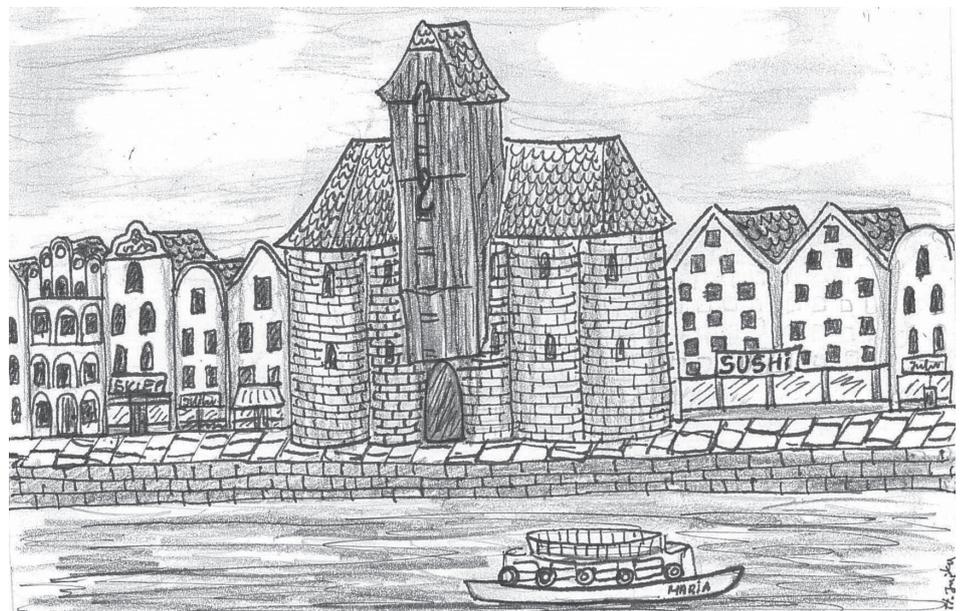
まず、グダニスクのけんちくようしきについてお話します。私の街にはモトワバ川があります。とてもうつくしいとおもいます。モトワバ川にそって歩きながら、有名なジュラフを見ることができます。このジュラフはつると言う名のクレーンです。昔は重い物をゆそうしたりしました。でも、げんざいはポーランド人はジュラフを使いません。その他にもグダニスクには中世の教会がたくさんあります。たとえばせいミコワイ教会や、せいカタジナ教会などがあります。すべての教会は古くてうつくしいです。でも、いちばん有

名で大切なきねんひはせいマリア教会です。レンガでつくられた世界でいちばん高い建物です。他の教会もりっぱです。その他のおもしろい所は国立博物館です。そこにはきれいな絵画がたくさんあります。きつぷのかかくも高くありません。私はこの博物館がととても好きです。日本のみなさんは国立博物館でハンス・メムリングの「最後の審判」をぜひ見た方がいいと思います。次のきねんひはネプチューンのふんすいす。これはグダニスクのほこりです。

私の街は夜でも本当にきれいです。グダニスクには古いきねんひがたくさんありますから、すべての場所を観光するのは大変です。八月にせいドミニク市場のお祭りがあります。これは私の大好きなグダニスクのお祭りです。このお祭りはとても有名です。海

外からたくさんの方が来ます。そして、毎年このお祭りを楽しみにしています。このお祭りではたくさんの方が色々な物を売ります。ふつうは古くてきちょうなほうせきりやお皿やCDなどを売ります。せいドミニクいちばではこはくも買うことができます。

グダニスクは緑が多い街です。動物園もあります。森にはしかや猪がいます。ときどき、森で見ることができます。散歩ができる場所がたくさんあります。たとえば、オリバ公園です。いろいろな木や花などがあります。グダニスクの交通は便利だとおもいます。地下鉄がありませんが、バスや路面電車はどこにでもあります。私はこの街が大好きです。グダニスクをおとずれた観光客は毎年夏休みにここにもどります。「また行きたい街」—これが私のふるさとグダニスクです。



入賞 私の街

古川俊雄
(大分県大分市)

クイズです。「私が住んでいる街はどこでしょうか。今から私がヒントを言いますから、教えてください。

ヒント1：この街は九州にあります。

ヒント2：街には温泉がたくさんあります。

ヒント3：街には「から揚げのお店がたくさんあります。この街の人はから揚げが大好きなんです。

さあ、どこか分かりますか？

ヒント4：街の前には海があります。瀬戸内海です。天気によければ、四国が見えます。

ヒント5：遠くに高い山が見えます。くじゅう連山という九州で一番高い山です。

ヒント6：右の写真を見てください。この人はフランシスコ・ザビエルというスペインの人です。昔、この街に来たことがあります。中学や高校の時、歴史の授業で勉強したことがありませんか。



さあ、もう分かりましたか。答えは大分市です。「大きい」という字に、時間の「分」と書いて、「おおいた」と読みます。「だいふん」ではありません。まちがえないでください。「温泉」と聞いて、別府市と思いませんでしたか。別府市は温泉がとても有名です。別府市は大分市のとなりにあります。大分市も温泉がたくさんあります。大分の人はよく温泉に行きます。大分に住めば、毎日温泉に入ることができます。

大分市はあまり大きい街ではありません。でも、温泉があるし、水と空気がきれいだし、野菜や魚もおいしいし、物価も安いし、とても住みやすい街です。

大分に来たら、ぜひ食べてほしい料理が



あります。それは「とり天」です。とり天は、鶏肉で作ったてんぷらです。から揚げと似ていますが、少し違います。とり天はすばらしい料理で、世界中の人が食べることができます。世界には牛肉や豚肉を食べられない人がたくさんいます。でも、とり天は鶏肉で作りますから、ほとんどの人が食べることができます。あなたも大分に来て、食べてみてください。一度食べたら、きっと好きになると思います。

大分の方言に「しんけん」という言葉があります。「しんけん」は「本当に」という意味です。私はこの街が「しんけん」好きです。あなたもぜひ大分に来てください。あなたも「しんけん」好きになると思いますよ。

佳作 私の町

小池律江
(東京都江東区)

豊洲は、最近人気のある町です。交通が大変便利です。銀座まで地下鉄で5、6分です。バスもいろいろあってどこでも行けますから、仕事や買い物に便利です。

それから「ゆりかもめ」もあります。「ゆりかもめ」に乗ると、景色がよくて楽しいです。私は、健康のために、歩いて銀座まで行ったことがあります。40分で行けました。ですから、大学やいろいろな会社が引っ越しして来ました。高層ビルやマンションや大きいスーパーがたくさんできました。今も、学校や大きい病院を作っています。有名な築地市場も引っ越しして来るそうですか

ら、もっと人が増えて、にぎやかな町になると思います。30年前は、交通も不便で何もなかった町でしたが、窓から海が見えてうれしかったです。今は、高いビルばかりで見えなくなりました。町の様子が変わるのが速くてびっくりしています。外国人もたくさん住んでいます。この間、うどん屋に入ったら、アルバイトの人はみな外国人で、てんぷらやおにぎりも作っていました。

昔は、豊洲とその周りは海でした。海を埋め立てて町をたくさん作って、90年ぐらい前に豊洲という名前にしたそうです。海の近くですから船の会社が多くあります。運河もたくさんあって荷物を運ぶ船が通っています。釣りに行く人や遊びに行く人が乗る船も通ります。夏は、花火を見物するための船も通ります。橋の上から見ていると、とてもきれいでおもしろいです。

でも、新しい町ですから、日本の古い町

が好きな人にはつまらないかもしれません。そんな人は、散歩しながら、古い町、門前仲町へ行ってみてください。深川という江戸時代からある町です。お寺や神社がたくさんあって、古い店も多いです。お相撲さんもよく歩いています。

新しい町が好きな人は、海のほうへ行ってください。お台場や有明や国際展示場もいいですよ。特に、テレビの会社があるお台場は若い人に人気があります。また、この近くの道は東京マラソンのコースになっています。

辰巳の森海浜公園は広くて静かで散歩がいいです。春は桜がとてもきれいで、大勢お花見に来ます。

豊洲と周りは、こんな町です。みなさん、一度遊びに来てください。

佳作 私の町

鬼 一二三

(カンボジア王国 シェムリアップ)

カンボジア王国をご存知ですか。東南アジアの国で、東にベトナム、北にラオス、西にタイ、南に海がある国です。面積は日本の約半分ですが、人口は日本の十パーセントぐらいですから、たいていの人は広い庭や田んぼを持っています。平均気温は二十七度で、あまり寒くなりません。それで、どこでもバナナやパパイヤ、やしの木などがあって、一年中自分の庭の果物が食べられます。夏服だけで過ごせますから、洋服にお金が掛かりません。

さて、私が住んでいる街は、世界遺産アンコール遺跡群で有名な観光地で、カンボジアの西北地方のシェムリアップという街です。アンコール国際空港から街のいちば

ん賑やかな所まで車で二十分くらいで、その間、道には信号が二つしかありません。

そんな小さな街ですが、色々なホテルやレストランが並んでいます。ホテルは、朝食付きで一泊五百円以下のとても安い所もあるし、一泊七万円以上の高級ホテルもあります。レストランは五、六百人のお客様が入れられる広い店がいくつもあって、美味しいアジア料理のバイキングを楽しみながら、カンボジアの伝統的な踊りを見ることもできます。ほとんどのホテルやレストランではワイファイが利用できます。

私の街で特に有名な所を二つ紹介します。まず、十二世紀の初めに建てられたアンコールワットです。世界でいちばん大きな仏教寺院で、東京ドームが十五個も入る広い遺跡です。もう一つは、東南アジアでいちばん大きなトレンサップ湖です。雨期と乾期で大きさが変わる不思議な湖ですが、いちばん大きな時には琵琶湖の十四倍になります。湖の上には村がたくさんあって、百万

人ぐらいの人が舟の家を作って湖で生活しています。

シェムリアップには世界中から観光客が集まります。カンボジアのお金はリエルとありますが、リエルに両替しなくても、この街ではどこでも日本円や米ドル・ユーロなど外国の現金がそのまま使えるので、旅行者に便利です。それから、ここでは外国語の勉強に人気があって、ぺらぺら話せる人も多いです。遺跡の観光は個人でもできますが、ぜひガイドを頼んでみてください。英語はもちろん、日本語・中国語・タイ語・ドイツ語・フランス語・ロシア語など、上手な外国語で詳しく案内してもらえます。カンボジアの歴史や人々の習慣なども説明してくれるので、この国のことがよく分かって、きっとこの国が好きになると思います。

最後に一言、ほとんどの日本語教室で使われている教科書は「みんなの日本語」です。

自由作文 教室内のおもしろ、なるほどエピソード

入賞

ベトナムのパンはフランスパン?

浅井華代

(滋賀県彦根市)

3~4年前から私の活動する日本語教室に、ベトナム人学習者がよく訪ねて来るようになりました。確かに、日本語学校ではベトナム人学習者が増加し、技能実習生もベトナム出身者が多くなりました。新版「みんなの日本語Ⅰ」の文法解説書も早々とベトナム語版ができました。旧版の時はなかなかベトナム語版が発売されなかったと記憶しております。

さて、教室ではよく、食べ物のお話が出てきます。特にベトナムというと、米食中心だそうで「一日一回米を食べなければ、元気がでない」と学習者達は息巻いています。ここ、滋賀県彦根市は近畿の米どころ、教室行事で近江米を口にした彼らはますます米びいきになっていきます。

では、小麦でできたパンはやはり口に合わないのでしょうか。食パン、菓子パン…どれもじっくりいかないようです。菓子パンは甘すぎるそうで、他のアジアの学習者と「砂糖入れすぎ!」と文句を言っています。

ある週末、一人のベトナム人学習者と学習の一環で、デパートへ行きました。食料品売場を歩いているといい香りがしてきます。突然、ベトナム人の彼が「あ!ベトナムのパンだ!懐かしい。」と叫びました。ベトナムのパンってどんなのかなと思い、見てみると、フランスパンでした。周りの買物客もびっくりしたような顔で見えています。「これはフランスパンよ」と言い返すと、「いや、これは間違いなくベトナムのパンだ。おいしいんだ」と興奮し、喜び勇んで、彼は一

本買って帰りました。

半年後、彼と主人と私の3人でベトナムハノイへ行く機会ができました。道端を歩いていると、パン売りの女性が寄ってきました。見ると、頭の上の籠にいっぱいフランスパンがのっているではありませんか。彼は「ベトナムのパンですよ。昔、学校の帰りによく買って食べましたね」と言いました。

日本に戻り、私の通う料理教室の教本を見ると、「ベトナムのパンとはフランスパンのこと、昔フランスに統治されていた時代の名残です。お肉をはさんで、サンドイッチにして食べ、バインミーと呼ばれています」と書かれていました。ベトナムのパンはフランスパンなのか。恐れ入りました。まだまだ不勉強な私です。



佳作 私のネタ帳

米田恵子
(兵庫県神戸市)

お笑い芸人ではないが、「ネタ帳」を持ち歩くようになって、もう7・8年になる。数年前に日本語教師が書いた本の中で、おもしろ・なるほどエピソードが紹介され話題になったが、私はそれよりもずっと以前からおもしろ日本語に注目していた。ただ、せっかくのネタも授業が終わるとすぐに忘れてしまうため、これではいけないと、授業が終わり講師室に戻って直ぐに、教室での思わず笑ってしまった、なるほどと思ったことを「ネタ帳」に書き留めるようになった。

では、そのネタ帳から。

- ①学生がアルバイト情報誌を持って来て、「先生、このアルバイトは、1円で送り迎えをしますか。」見ると募集広告に「市内一円送迎有り」とあった。一円されど一円である。
- ②学生「日本の天気予報は正確です。雨が

降る時間も分かります。明日の天気は曇り一時雨と言いました。」一時は午後一時ということか。

これは、日本語には同音異義語が多いということからくる間違いであろう。他にも、日本語を習い始めたばかりの学習者に共通して起こることもある。

③「お茶をもういっぱいいかがですか」「いっぱい(たくさん)」「いいえ、もう一杯ということですよ。」

④日本語の「絵」は「え」と習うと、「はい」「いいえ」で答える問題をやっていて、「この答えは『いいえ』です。」「いいえ? A good picture? いい絵?」

にこっと笑って確信犯的にジョークとして言う学習者もいるが、真面目に誤解して言う学習者も多い。もちろん、すんなり受け入れる素直な学習者もいる。これは、それぞれどんな反応を示すのか、初級の学習者を教えるときの私の密かな楽しみでもある。

次に、なるほど話。というよりも私の日本語教師の原点の話である。日本語を教え始めて間もない頃、1対1の授業で教えたときのことである。学習者は、中学校の英語教

師として来日したアメリカ人の青年であった。その彼がよいよ帰国というときに、さよならパーティを家でした。夫と私だけの語学力では心許ないので、英語ができる友人など数家族を呼んだ。すると、彼は、夫や友人とは英語で話すが、その輪の中に私が入ると、がぜん日本語を話すのである。私はその時不思議な気がしていた。外国人を見たら語学を教えてくださいという思い込みがどうしても私の中にあり、外国人を前にしたら一生懸命外国語を話す自分がいたからである。しかし、そんな思い込みも吹き飛んだのだ。「そーだ。私は日本語教師なんだ」「彼の日本語の習得を手伝ったのは、私なんだ」と、日本語教師の醍醐味、面白さを知ったのである。もう帰国するというリラックスした雰囲気であるにもかかわらず、懸命に日本語を話す彼に私は感動し、日本語教師としての責任も感じたのである。日々の授業では、反省することの方が多く、「反省帳」を付けたら「ネタ帳」よりもずっと分厚くなるのは間違いない。けれども、私は前向き指向で、おもしろ・なるほどエピソードをずっと書き留めていこうと思う。

たくさんのご応募、ありがとうございました！

おかげさまで当社は今年、会社創立から40年を迎えることができました。これはひとえに当社書籍をご愛用くださっている皆様のおかげと心より感謝しております。

そこで今回のコンテストは、日頃当社教材をお使いいただいている皆様に、お礼ができませんかと考えたものです。そして賞品としてご希望の書籍を手にしていただけるようにいたしました。

ありがたいことに多くのご応募をいただきました。日本国内ばかりでなく、海外からのご応募もありました。改めてご応募くださった皆様にお礼申し上げます。

今回のコンテストは、課題作文と自由作文の2部門で行いました。課題作文では日本語学習者であれば、初級の頃に一度は書いたと思われる「私の街」を課題としました。普段の書かせる立場とは逆の学習者の立場でそれも初級レベルで書いていただきました。自由作文では、普段、日本語の先生方の中で楽しく語られている授業や学習者とのやり取りで生まれるいろいろなエピソードをぜひ共有していただきたいという思いがありました。

ご応募いただいた作品を拝見していると、皆様ご自分の街をとても大切に紹介なさっていて、どの街もそこに住んでいる人だからこそ、の視点で紹介されており、行ってみたい街が増えました。街の名所旧跡の紹介ばかりではなく、おいしい食べ物、生活の様子、日常の街の風景など、ご紹介いただいたのは本当にさまざま

な街の様子でした。初級レベルの日本語という条件に合わせて、漢字表記、ルビの使用、語彙の取捨選択など、いろいろとお考えいただいた様子も伺えました。今回のコンテストは40周年記念でもあり、1回限りのものですが、このように日本中の街を、日本に興味を持っている人たちにご紹介できれば面白いのではないかと思います。日本地図をクリックすると、そこに紹介文が出てくるようなわが街紹介ができれば面白そうですね。

自由作文の部では、日頃皆様が隠し持っているネタを披露していただきました。コミュニケーションの齟齬によるもの、授業中は懸命に笑いをこらえるような学習者の間違い、文化や認識の違いによる話の食い違いなど、真剣な授業中の楽しそうな一瞬が垣間見えました。

普段は主に書籍、セミナーを通して皆様方と関わらせていただいておりますが、なかなか直接ご連絡を取らせていただくことはありませんので、このような機会は当社にとってもとても貴重な機会でした。改めて感謝申し上げますとともに、今後とも変わらず、当社書籍をお使いいただき、ご指導、ご鞭撻いただけますようお願いいたします。

株式会社スリーエーネットワーク
代表取締役社長 小林卓爾